

船舶事故等調査報告書

平成21年5月28日

運輸安全委員会(海事専門部会)議決

事故等番号	2009門第42号	
事故等名	貨物船ニューつるよし乗揚	
発生年月日時刻	平成21年1月29日15時40分ごろ	
発生場所	大分港鶴崎東防波堤灯台から真方位155° 1,860m (北緯33° 15' 53"、東経131° 41' 17" 付近)	
事故等調査の経過	調査の概要:平成21年3月17日門司・地方事故調査官が船長から事故概況を口述聴取 原因関係者からの意見聴取:意見なし	
事実情報 船種・船名・総トン数 船舶番号(IMO 番号) 船舶所有者等	貨物船 ニューつるよし 199トン 131253 有限会社永目汽船	
乗組員等に関する情報	船長 四級海技士(航海)	
負傷者	なし	
損害	右舷船尾部船底に擦過傷(長さ約1m)	
事故等の経過	<p>本船は、大分港鶴崎泊地に着き、西側の棧橋で樹脂の積荷役中、雨のため荷役を中断することとなり、船長ほか7人が乗り組み、船首0.8m、船尾3.4mの喫水で、棧橋を発した。</p> <p>船長は、泊地奥の新港地区西岸壁に向かって、乗組員を船首尾配置につけ、自ら手動操舵により約2ノットの速力で南下中、平成21年1月29日15時40分ごろ、右舷船尾船底が新港地区西岸壁の北方660m付近の浅所に底触した。その後、浸水等異常が認められなかったので続航した。</p> <p>当時、大分港の潮候は、ほぼ低潮時で、潮高は約0.7mであり、北西の風、風力1であった。</p>	
分析	気象・海象の関与 乗組員等の関与 船体・機関等の関与 判明した事項の解析	なし あり なし 本船は、操船を適切に行わず、水路の右岸に寄り過ぎて進行した可能性があると考えられる。
原因	本事故は、本船が航行中、操船を適切に行わなかったため、水路右岸の浅所に乗り揚げたことにより発生した可能性があると考えられる。	
その他の事項	なし	